第２回　校内研究全体会

令和５年６月14日　授業：５校時　３年２組〇〇級　国語科「まいごのかぎ」
協議：14：45～16：30　図書室

☆グループ協議

成果	課題
一人ひとりを大切に　安心できる学級 子：共感から共有ができていた。 教師：読みのめあてづくりの基準を明確にしていた。 子ども同士の関わり合いの場 教師の関わり→子どもの反応につながった。	読みのめあての共通理解　一人ひとりに入る指導 子：考えを整理する上では、視覚情報も必要 教師：価値づけ・集約 子どもが課題を把握し、取り組みやすくするための手立て

☆全体協議

板書のネクストプラン

・「りいこに聞いてみたいことから読みのめあてをつくろう」「グループで１つにしぼるポイント」などを掲示・・・***よりどころとなる板書***

問いづくりのネクストプラン・・・子どもの広がった問いの集約の仕方

・紙に残しておいて、学びの手引を押さえつつ、自分たちの課題に迫っていく。
・学習問題を作ろうというと、高学年はすんなりと問いがでる。それは、低・中学年での積み重ね。3年生段階では、教師が作り方を教えてく段階でよいと思う。この経験が高学年でいきてくる。
・たくさん出た意見も、「このときのりいこの気持ちは？」とすると、りいこの心情、心情変化で進めていけるのではないか。
・同じ意見グループでの***グルーピング***だとどうだろうか。

☆指導主事より

・本時の身につけたい資質能力とは？登場人物の気持ち、気持ちの変化がキーワード
・主体的な学び
　考える必然性の視点でみる。みんなで授業を作っていこうという姿勢がよい。本時の授業で何をするかわかっていることが大事。りいこに聞いてみたいことを何のために書くのかを子どもがしっかり理解しておくとよい。
・対話的な学び
　ペアワークでも、グループワークでも、子どもの考えを教師がしっかり把握している声掛けがよい。単元計画と本時計画の評価基準のズレをなくす。対話のための対話になっていないだろうか。***何のための対話***かをしっかりつかんでおく。
・深い学び
　単元の見通しをもつことが大切。深い学びをつくるための学習問題づくりにおいては、教師が何をねらい、どんな学習問題を作ろうとしているか計画を立てることが大切。問いづくりは、今後にいきてくる。
・子ども主体について
　子ども主体の授業とは何か？国語では、20回「主体」という語が出てくる。しかし、「主体的」の「主体」が多い。「主体」単独は１回も出てこず。「主体的」か「主体性」なのか・・・。「主体」という言葉はさまざまな捉え方ができるので、***学校全体で共通理解***をすることが大切。

☆研究主任から

・今回の授業で感じたこと考えたことを、自分の授業でいかしたり、試したりしてください。
・本研究の「子ども主体」の「主体」とは、本校の児童の実態（素直で明るく、言われたことはできるが、～したい（しよう）や自分から進んで行動することには消極的）から考えると、「自ら進んで〇〇する」ことに近い。子ども自ら、学びたい、考えたい、知りたい、話したい、聞きたいなど、～したいと思い、その思いを実現する授業が「子ども主体」な授業とし、研究を進めていきたい。

次へのバトンは、斜字・太字で表示してみました。日々の授業でも、取り入れて検証してみてください。